巫女さま全部つ！

ぜんぶ

＋α

ぷらすあるふぁ

巫女さまは お仕事中！

こっそり教える巫女さまの24時間

巫女さまはいい！　なんといってもあの緋袴が可愛いし、髪も長くてきれい。もう絶滅してしまったと思われた大和撫子そのものです。ずっと見ていても飽きません。

「家に一人欲しいなぁ」なんて呑気なことを考えていたりしませんか？　でも巫女さまは、巫女さまをしてお給料をもらっている、いわゆるＯＬさんなのです。巫女さまだってちゃんと働いているのです。のんびりと座って、お守りを売っているだけではないのです。

巫女さまはなにをする人なの？

巫女さまのお仕事は、神様にお仕えすることです。

もっとも、大事な祭事などは、宮司（ぐうじ）さんや禰宜（ねぎ）さんなどの神職さんが仕切ります。巫女さまはそのお手伝いさんをしています。このお手伝いさんが、主なお仕事です。

ただ、お手伝いさんといっても、そんなに気楽なものではありません。

九時にはお宮の門を開けて参拝できるようにしなくてはなりませんし、夜は門を閉じるまで神社にいなくてはなりません。夕方の五時、六時には門を閉じる神社もありますし、もっと遅い時間の神社もあります。つまり、これだけでも、九時→五時のＯＬさんよりも勤務時間が長いのです。さらに、ご祈祷や結婚式は、主に日曜日に行なわれます。つまり、巫女さんは土日は基本的に休めないわけです。腰掛け気分では勤まらないお仕事です。

さらに、結婚式やご祈祷で披露する舞や雅楽の練習をしなくてはなりません。これはいままでの経験にはない、新しいことですから覚えるのは大変です。神社によっては、とても厳しい規則があったりします。何しろ、お仕えしているのが神様ですから、一筋縄ではいかないのです。巫女さまが、ただお守りを売るだけの人ではないことはわかっていただけたでしょうか。

楽そうに見えますが、実は巫女さまは、とても働き者なのです。

巫女さまのお仕事はなに？

それでは、お仕事の紹介を兼ねて、ちょっと巫女さまの一日を追ってみましょう。

巫女さまの朝はお掃除から始まります。一見、簡単そうに思われてしまうのですが、境内というのは非常に広いので、これがなかなか重労働です。中規模の神社だと巫女さまは三、四人くらいしかいません。その人数で境内すべてを掃き清めなくてはならないのです。秋だと落ち葉の量がすごいので、それだけでものすごい時間をとられてしまいます。もちろん、境内だけではありません。神様のお住まいであるお宮は、特に念入りに掃除しなくてはなりません。

お掃除が終わったら朝の拝礼です。宮司さんをはじめ、神社に勤める人たちが神様に参拝します。ちょっと違うのですが、普通の会社の朝礼のようなものです。

ここからが巫女さまの本格的なお仕事です。といっても、平日はあまりご祈祷や結婚式はありません。社務所でお札やお守りの授与をしたり、切麻（きりぬさ）や紙垂（しで）を切るなどの雑用をこなします。そのほか、会社と同じように事務の仕事があったり、舞や雅楽の練習もありますが、そんなに忙しくはありません。そういう意味ではのんびりとしています。ただ、平日は絶対にご祈祷がない、とは限りませんし、参拝客も来ます。きちんとした対応ができるように、気は引き締めていなければなりません。また、時間が空いたら、またお掃除をします。

観光地になっている神社の場合、平日でも参拝客が大勢訪れますから、ずっと忙しくなります。

夕方五時ごろ（これは神社によります。もっと早いところもあります）になると、お宮の門を閉めます。このとき、賽銭箱のお賽銭を回収をします。神社によっては、賽銭箱が複数あるので、ちょっと大変です。

これが一般的な、平日の巫女さまのお仕事です。

土日になると、参拝客がぐっと増える上に、結婚式やご祈祷が加わりますから、目の回るような忙しさです。特に十月、十一月になると、結婚式が増えるので、休む暇がありません。

巫女さまの一日に密着

1：出社したら、まずは着替えです。装束に着替えて初めて巫女さまとなるのです。出社時間は神社によってまちまちですが、8時くらいのところもあります。

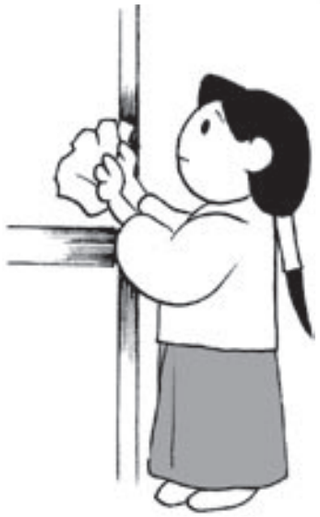
2：次は神社全体のお掃除です。ちゃんと掃き清めてからお宮の門を開けます。

3：在庫管理や会計といった事務のお仕事もします。簿記資格までは必要ありません。巫女さまになってから覚えればいいレベルの事務です。

4：時間が空いたら、とにかくお掃除です。巫女さまのお仕事の基本は、お掃除と言っていいくらいお掃除をします。

5：お昼になったら、お昼ご飯を食べます。食堂完備、なんて神社はないでしょうから、お弁当を持ってくるか、コンビニで買ったものを食べます。

6：常に社務所には誰かいます。ご祈祷の受付、お守りの授与などをします。人の少ないときなら、比較的楽なお仕事になります。



7：時間が空けば、お掃除をするのが巫女さまのお仕事です。

8：これだけの仕事を毎日するのが巫女さまです。とても疲れます。休日だとご祈祷も増えますからもっと大変。

9：神社を閉める時間は神社によってまちまちです。8時くらいの神社も。最後は不心得者に盗まれないようにお賽銭を回収しておきます。

巫女さまの舞を見たい！

巫女さまの晴れ舞台と舞の愉しみ

巫女さまって、雑用ばかりで楽しくなさそう、なんて思っていませんか。普段はお掃除や事務などの雑用に追われていますが、いざご祈祷、となると舞を見せてくれます。もちろん、これが巫女さま一番の見せ場です。華やかな装束に身を包んだ巫女さまを是非ご覧下さい。

巫女さまの晴れ舞台を見よう

舞は巫女さまの重要なお仕事の一つです。いや、舞を舞うために巫女さまがいる、と言っても過言ではありません。この舞を覚えるのが、巫女さまの最初の仕事になります。

舞はいろいろな種類がありますが、豊栄（とよさか）の舞、浦安（うらやす）の舞を舞う機会が多いです。ほかはお正月だけの舞など、年に一回か二回しか舞いません。神社で舞を舞っているのを見かけたら、この二つのうちのどれかと思って間違いありません。

この舞を見るには、いくつかの方法があります。まず第一に、結婚式を神前式にする。そうすれば、巫女さまが舞を舞ってくれます。もっとも、舞を見るために結婚するわけにはいきません。

というわけで、一番手っ取り早いご祈祷をお願いしましょう。あなたのためだけに、巫女さまが至近距離で舞ってくれます。巫女さまファンなら、一度は頼んでおいた方がいいでしょう。名目は家内安全でも、交通祈願でもなんでも構いません。ご祈祷は初穂料によってランクがありますが、だいたい、一番上のランク（一万円から三万円くらい）なら舞が付きます。一番下の、五千円くらいだと、舞がつい たりつかなかったりです。ただこれは、神社によって差がありますので、あらかじめ聞いておくと良いでしょう。

二年に一回、明治神宮のホールで舞の発表会が行なわれています。これだと、入場料三千円で滅多に見られない舞も見られるので大変お得です。しかも、雅楽が生演奏です。

そして、無料で舞を見る方法のご紹介です。お正月に神社へ行くと、お正月だけの舞をしていますが、これはかなり混雑するので、ゆっくり見ることができません。これは発表会で見た方がいいと思います。

ですから、元旦を外して、三日とか四日に行きましょう。そうすると、たいていご祈祷をお願いしている人がいます。陰からこっそりと、そのご祈祷の様子を見ましょう。たぶん、舞を舞うはずです。飯田橋付近の東京大神宮は、お賽銭箱の向こう側でご祈祷をするので、バッチリ舞が見られます。

巫女さまじゃなくても舞を習える！

さて、舞を見ているうちに、段々自分でも舞ってみたくなる人もいると思います。でも、ちゃんと巫女さまにならないと習えないし……なんて思っていたら大間違いです。巫女さまでなくても、お祭りのお手伝いなどの必要から舞を覚えなくてはならない人たちがいます。神社で教えてもらえれば一番ですが、知り合いがいないとなかなか難しいところです。じゃあ、どうすればいいのでしょう。

実は、春と夏の年二回、明治神宮で舞の講習会が行なわれているのです（有料）。

この講習会は、基本的に巫女さまや神社関係者のために行なわれているのですが、一般の人でも参加することができます。特別なコネクションも必要ありません。自分の名前で申し込みができます。巫女装束は自分で用意しなくてはいけませんし、平日に五日間連続で行なわれますから、少々敷居が高いのですが、数少ない舞を習うチャンスの一つです。このチャンスを逃さないようにしましょう。

浦安の舞の装束

略式
ほとんどのお宮はこっちの方でしょう。浦安用千早は、柄が多少違います。千早であれば何でもOKだと思ってください（本装束は、舞によって様々です）。略式でも、本装束でも菊のかんざしを付けます。

井筒の柄はこんな感じ。

本装束
重ねて着ているように見せる「重ね衿」ついています。
襦袢、半襟、白衣の上から着ると、6枚くらい重ねているように見えます。一番上はシースルー（下が透ける）になった衣です。柄はメーカーによって異なります。

巫女さまになりたい！

巫女さまになるいくつかの方法

巫女さま好きが高じて「巫女さまになりたい！」という人は意外に多いようです。インターネットでちょっと調べてみると、「巫女さまになりたいのですが、どうすればいいのですか」なんて書き込みをすぐに見つけ出すことができます。ここでは、みんなが興味のある、巫女さまになる方法について解説していきます。

ちょっと真面目に巫女さまになろう

巫女さまになるには、特に資格は必要ありません。義務教育さえ終わっていれば、誰でも巫女さまになれます。高度な教養や学歴も必要とされません。敢えて資格を挙げるなら、女性であること、ということぐらいですね。

神社といっても、会社と同じようにきちんと経営されていますから、時期が来れば求人を出しています。毎年求人を出す大きな神社もある一方で、何年かに一度、巫女さまが辞めてしまったときにだけ求人を出す神社もあります。もちろん、家族だけで人手が足りてしまう小さな神社もあります。だから、どの神社にも共通の就職方法というものはありません。こまめに求人案内をチェックするように気をつけましょう。

求人案内が出されているのは、高校の就職窓口が多いようです。

これには理由がありまして、巫女さまは二十五歳が定年（神社によって異なります）で、大学だと卒業時二十二歳ですから三年間しか巫女さまになれないのです。そのため、大卒だと神社は採用を控えてしまうのです。もちろん、例外はありまして、二十五歳以上でも巫女さまの人はいます。

巫女さま定年後は、そのまま

神社の事務職として働くのが一般的です。

いま現在、高校生の人は、いまが巫女さまになるチャンス！

卒業後に、なりたい、と思っても、なかなかなれません。

どんな人が採用されやすいか、と言いますと、やっぱり神社の近所に住んでいる人です。どんなに優秀でも、遠くに住んでいると、神社もなかなか採用しにくいようです。求人も神社から近くの高校に出すのが普通です。

寮を完備した大きな神社もありますが、これはかなり希なケース。試しに応募してみる価値はありますが、実際に就職したときのことを考えると、なるべく近所の神社を狙いましょう。近所だと親や親戚などのコネクションが効いて就職できるケースも少なくありません。

あと、非常に素朴な手段なのですが、神社に「巫女募集」の貼り紙がされていることがあります（赤坂の日枝神社によく貼ってあります）。こういう機会を逃さないように、日々の神社巡り、巫女さまウォッチは欠かさないようにしましょう。

ちなみに「巫女募集」は、先ほど挙げた年齢、住所の条件が合わないと、まず採用されません。

気合いが決め手！絶対巫女さまになる

ちょっとインターネットで巫女の募集を探してみました。

ないこともない、というところでしょうか。お正月の臨時巫女さまの募集が一番多いようです。高校生で応募して、就職への道を拓こう、という真面目な方は是非挑戦してみましょう。高校への求人案内も、近所の高校すべてに出しているわけではありませんから、家が近所なのに知らなかった、なんてことがあるかもしれません。ただ、お正月の臨時巫女さまは、見た目ほど甘くはありません。

巫女さまの求人案内には、いろいろと条件が書いてありますが、本文で解説した年齢、住所の条件は、明記されていなくても条件になっていると思っておきましょう。全然見当外れな人が応募しても、神社の方の迷惑になります。

最後に、裏技。電話をかけて聞いてみる！　この方法なら、一日で百くらいの神社を当たることが可能ですね。単純な上に地味な方法ですが、試してみる価値はありますよ。七月くらいに電話をすれば、ちょうど新卒の求人を出したところがあるはずです。家から遠くても、全国に名前を知られた神社にも電話してみましょう。何かしらの解決方法を教えてもらえると思います。そもそも、そういう電話には慣れているんです、大きな神社は。

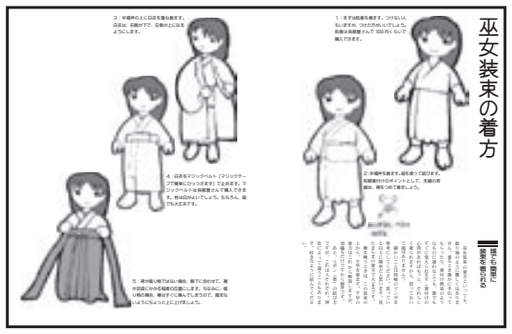
加企画Webサイト[D-STYLE]
http://www.joy.hi-ho.ne.jp/hakumei/
頒価　1000円　＋送料　が必要になります。

目次

みこさまはお仕事中！ 4
巫女さまの一日に密着
巫女さまを知りたい！ 6
巫女さまはいつも大変！
巫女さまふあん 8
巫女さまへの質問七つ！
巫女さまになりたい！ 10
お正月巫女さまになろう
巫女さまの舞を見たい！ 12
助勤巫女さまへの道
巫女装束を着たい！ 16
現役巫女さまのおことば
巫女装束の着方 18
浦安の舞の装束
千早ってどんなもの？ 20
浦安の舞を覚えよう！
巫女装束の脱がし方 22
巫女装束の着方
23 24 26 28 32 34 40 42

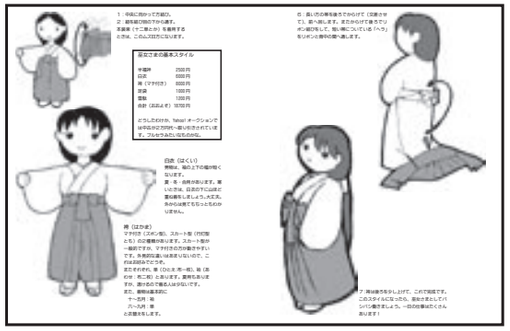
表紙４色(マットＰＰ加工)
オフセット印刷。本文44ページ。
フルデジタルにより、文字、イラストなどが美麗に印刷されています。

『巫女さま全部っ！』好評発売中！



『巫女さま全部っ＋α』をお買いあげいただき、ありがとうございます。本書は、現在発売中の『巫女さま全部っ！』の一部ページに書き下ろしのマンガや情報を加えたものです。

もっと詳しい巫女さまの情報が欲しい！という方は、是非、『巫女さま全部っ！』をお買い求め下さい。巫女さまファンから、巫女さま志望者、ＯＧまで、幅広い方々からご好評をいただいております。コミックマーケットなどのイベントの他、Ｗｅｂサイトで通信販売を行なっております。頒価（千円）に送料が必要になります。詳しくはサイトまでお越し下さい。



あとがき

最後まで読んで下さって、ありがとうございます。

無料配布という乱行を一度やってみたかったので、本編の販促活動も込みで、一冊再構成してみました。

書き下ろしマンガがある上に、ちょこまかと構成をいじったので、ゼロから作るのと同じくらい手間がかかりました。ページを組み替えるだけでも、結構大変なんです。それだけに、特別愛情を感じる一冊です。

今回、絶対載せようと原稿も用意していたのですが、諸事情により、浦安舞の鈴の舞を掲載できませんでした。大変、申し訳ありません。次回、ペーパーや冊子などの形で必ずご用意させていただきます。

今後もご贔屓をお願いいたします。

編集:加企画
発行人:加藤伯明
2003年12月30日初版一刷発行

感想などはこちらへ。hakumei@joy.hi-ho.ne.jp
加企画Webサイト[D-STYLE]　http://www.joy.hi-ho.ne.jp/hakumei/